

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部長寿社会政策課	関係部課室	
政策番号	3-7-3	政策名	男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成		
施策番号	4	施策名	高齢者がいきいきと生活する社会づくり		

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】課題有
 ・指標名:高齢者のうち就業・社会活動している者の割合 達成度 ...
 ・(達成状況の背景)高齢者人口は増加しており、社会参加活動を行う高齢者の割合も増加していると推測される。
 ・(達成度から見た有効性)5年ごとの指標値であるため、施策の効果は不明である。

【政策満足度から】有効
 ・政策満足度は、過去59点から60点であり、政策に対する施策の効果は有効と考えられる。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効
 ・高齢者の地域社会への参加に関する意識調査(H15内閣府)では「この1年間に、個人又は友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている何らかの活動に参加したことがあるか」との設問に「参加したものがある」が、H5:42.3%、H10:43.7%、H15:54.8%と年々増加しており、社会参加が進んでいる。

【総括】
 ・政策評価指標達成度からは、有効性の判定ができないが、政策満足度や内閣府の調査などからは、一定の効果が認められ、有効と判定できる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	みやぎシニアカレッジ運営事業	6		
2	主	明るい長寿社会づくり推進事業	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 概ね適切 課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】適切
 ・(国)介護予防・地域支え合い事業などの支援サービスの提供
 ・(県)高齢者の生きがいと健康づくりのための各種事業を実施するために県・市町村及び民間で協力して設立した宮城県の「明るい長寿社会づくり推進機構」である(財)宮城いきいき財団(現(社福)宮城県社会福祉協議会)のほか、市町村、県老人クラブ連合会等を支援
 ・(市町村)基礎的な高齢者福祉サービスを市町村が提供
 ・(民間団体)社会参加、生きがいづくり、ボランティア、スポーツ、生涯学習、趣味など各種活動の実施
 ・長い高齢期を、どのように健康で生きがいを持って過ごすかは、大きな課題であり、スポーツ活動・生涯学習・文化活動の振興、ボランティアやコミュニティ活動の振興、雇用対策など、高齢者施策ではないが、関連が強い様々な施策・事業が国・県・市町村などにより広汎に行われている。
 ・この施策に係る事業群は、上記役割分担に沿って設定・実施されており、県の関与は適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・県の2つの主要事業は、高齢者が行う様々な地域活動のリーダーとなる人材の養成、高齢者のスポーツや文化活動を通じて交流を深める場の提供など、元気高齢者の社会参加を促進する環境づくりのための象徴的な事業となっており、すべて施策目的を実現するために必要な事業である。
 ・今後、団塊世代の高齢化に対する長期的視野に立った取組が必要である。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・目的に応じ事業が適正に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。

【社会経済情勢に適応した事業か】適切
 ・旧宮城いきいき財団(現県社協)では、定年を迎えたサラリーマンシニアの自主的組織の立ち上げ支援を行うなど、社会参加に関する元気高齢者の新しいニーズに対応したサービスを提供している。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) おおむね適切
 ・過去3年の施策満足度は、着実に向上している。かい離度の変動が大きく今後の推移を見守る必要がある。

【総括】
 ・事業目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査の推移から判断して、この事業の事業設定は適切と判断する。

施策番号	4	施策名	高齢者がいきいきと生活する社会づくり
------	---	-----	--------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効 概ね有効 課題有

<p>【施策満足度から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策満足度は、毎年向上し60点になっている。満足度を高める事業は広汎で、県の事業だけではないが、一定の効果はあり、有効と認められる。 <p>【政策評価指標達成状況から】判定不能 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年度の現況値は、仮目標値を下回るものの、前回の測定値から1.8ポイント増加している。 <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府の調査では、H5:42.3%, H10:43.7%, H15:54.8%と高齢者の社会参加活動は活発になっており、一層の施策の推進が必要である。 <p>【業績指標推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みやぎシニアカレッジ5校で、毎年約400人の元気シニアが学んでいる。また、全国各地で持ち回りで開催されるねんりんピックにも毎年約150人程度の方が参加している。 <p>【成果指標推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねんりんピックの予選会等の参加者を含めると約1,500人に達し、底辺の広い参加となっている。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策評価指標からは判定不能であるが、施策満足度、社会経済情勢、業績指標、成果指標では、一定の施策の効果が認められることから、事業群は「有効」と判定する。
--

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的 概ね効率的 課題有

<p>【施策満足度 業績指標・成果指標】効率的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策満足度は、年々向上し60点に達している。業績指標、成果指標の推移と一定の相関が認められ、効率的と判定する。 <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】課題有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標値が判定不能であるため、相関についても判定不能。 <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加はH5:42.3%, H10:43.7%, H15:54.8%と増加しており、業績指標・成果指標の推移と正の相関があることから、効率的と判定する。 <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき学園5校の在校生が変わらない一方で、運営費が減少したことから若干効率性が上がった。 ・明るい長寿社会づくり推進事業費が減少したのは、ねんりんピックの開催地が、平成15年度の徳島県から平成16年度の群馬県に変わったためであるが、事業はおおむね効率的に実施されている。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策評価指標が判定不能であるが、施策満足度、業績指標、成果指標では、施策の目指す方向に進んでいると判断できるので、事業群は、効率的に実施していると判定できる。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

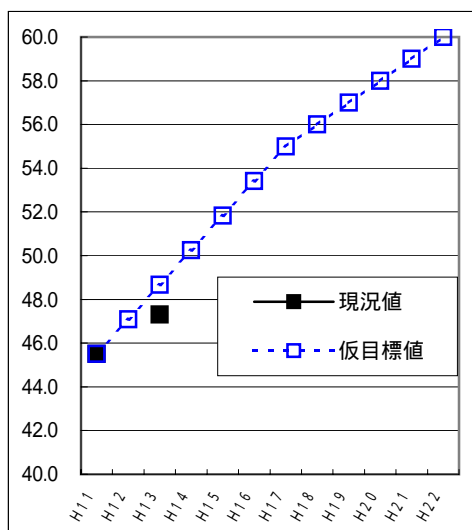
<ul style="list-style-type: none"> ・事業群の設定は適切、有効性は有効、効率性は効率的であり、全体としては適切と判断できる。
--

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部長寿社会政策課	関係部課室	
政策番号	3-7-3	政策名	男女共同参画社会の実現と全ての人が参加できる社会の形成		
施策番号	4	施策名	高齢者がいきいきと生活する社会づくり		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
高齢者のうち就業・社会活動している者の割合		%						
目標値	難易度	H17	55	H22	60			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H8				H13	-	-	
現況値 (達成度判定値)	45.5				47.3	-	-	
仮目標値		45.5	47.1	48.6	50.2	51.8	53.4	55.0
達成度		B	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・高齢者が、仕事に従事したり、社会参加活動を行うことによりいきいきとした健康的な生活を送っている社会を象徴的に示す指標として選定した。
 ・2010年には65歳以上人口が全人口に占める割合が21.3%(注)になると推計され、高齢者の就業環境の整備や社会活動に積極的に参加できる環境整備が求められている。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		79	70	75						
	施策満足度 B	-		55	58	60						
	かい離 A-B	-		24	12	15						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
<p>達成度:...</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成13年度の現況値は、仮目標値を下回るものの、前回の測定値から1.8ポイント増加している。 就業と社会活動の内訳について、平成8年調査調査では、就業が約29%、社会活動が約16%であったが、平成13年調査では、就業が約26%に減少した一方、社会活動が約21%に増加した。 景気の低迷から高齢者の就業環境の大幅な改善はあまり見込めないが、今後、団塊世代の高齢化など65歳以上の高齢者人口の伸びとともに生きがい、健康づくり等の意義・必要性の理解は浸透してきていると考えられ、社会活動への参加は増加すると思われる。 	<p>判定:...</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策満足度は、過去3回にわたり増加している。 政策評価指標は、総務省の5年ごとの統計調査(社会生活基本調査)に基づくものであり、中間年の状況を示す客観的な数値が得られず、毎年の達成状況の把握が困難である。 このことから、達成度と施策満足度との相関は判定不能である。 <p>相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)</p>

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

継続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
 ・この指標は、高齢者が元気でいきいきとした生活を送っていることを象徴する概括的なものとして、特に就業と社会活動に着目して設定したものである。
 ・これからの高齢社会においては、高齢者が、地域社会の一員として仲間づくりや社会貢献などで積極的に社会に参加し、これまで培った知識や技能を生かして働き、学習やスポーツに親しみ、生きがいのある人生を送ることが重要であり、そうした社会の達成度を推測できる指標である。
 ・データが5年ごとにしか得られない総務省の資料によるという問題はありますが、施策の方向性等を確認し、評価するにはおおむね妥当な指標と考えられる。

